

問1 北条泰時が制定した「御成敗式目」の内容や特徴を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2015年 佐賀公立入試 類似）

1. 源頼朝以来の先例や、武士社会の慣習をもとにして作られた。
2. 朝廷が定めた律令を重んじ、公家社会の法を武士に強制した。
3. 室町幕府が政治の基本方針を示すために、足利尊氏が制定した。
4. 江戸幕府が諸大名を統制し、城の修築などを制限するために制定した。

問2 後醍醐天皇が鎌倉幕府を倒した後に始めた「建武の新政」について、その政治の実態と歴史的背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2025年 東京都公立入試 類似）

1. 天皇が中心となって公家を重用する政治を行ったが、恩賞の不公平さなどから武士の不満が高まり、わずか数年で崩壊した。
2. 幕府を倒した功績により足利尊氏を征夷大将軍に任命し、武士の権利を全面的に認める強力な武家政治を確立した。
3. 律令制度を完全に復活させるため、全国の土地を公地公民とし、班田収授法に基づく税制を再び実施した。
4. 仏教の力で国家の安定を図るため、全国に国分寺を建立し、東大寺の大仏造営を通じて天皇の権威を高めた。

問3 7世紀から14世紀初頭にかけての日本の仏教文化に関する4つの出来事（聖武天皇による国分寺建立の詔、最澄による天台宗の開教、奥州藤原氏による中尊寺金色堂の建立、運慶らによる東大寺南大門金剛力士像の制作）を、発生した時期の古い順に正しく並べているものはどれですか。（2026年 高知公立入試 類似）

1. 国分寺建立の詔（奈良時代）→ 最澄による天台宗の開教（平安時代初期）→ 中尊寺金色堂の建立（平安時代末期）→ 運慶らの金剛力士像制作（鎌倉時代）
2. 最澄による天台宗の開教（平安時代初期）→ 国分寺建立の詔（奈良時代）→ 中尊寺金色堂の建立（平安時代末期）→ 運慶らの金剛力士像制作（鎌倉時代）
3. 国分寺建立の詔（奈良時代）→ 中尊寺金色堂の建立（平安時代末期）→ 最澄による天台宗の開教（平安時代初期）→ 運慶らの金剛力士像制作（鎌倉時代）
4. 国分寺建立の詔（奈良時代）→ 最澄による天台宗の開教（平安時代初期）→ 運慶らの金剛力士像制作（鎌倉時代）→ 中尊寺金色堂の建立（平安時代末期）

問4 鎌倉時代の文化において、「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり...」という一節で知られる軍記物語があります。この物語が、文字を読めない庶民の間にも広く普及した理由として、最も適切な説明を選びなさい。（2020年 千葉県公立入試 類似）

1. 琵琶を弾きながら語り歩く琵琶法師によって、各地で語り伝えられたため
2. 朝廷が公式な歴史書として認め、各地の役所に書き写させたため
3. 活版印刷の技術が普及し、安価な本として大量に出版されたため
4. 寺子屋で読み書きの教科書として広く採用されたため

問5 鎌倉時代の御家人の間で行われていた、父親の領地を複数の子に分けて引き継がせる仕組みについて述べた説明として、最も適切なものはどれですか。なお、この仕組みでは、世代を重ねるごとに個々の御家人が持つ領地が小さくなるという特徴がありました。（2024年 千葉県公立入試 類似）

1. 個々の領地が縮小し、御家人が経済的に困窮する原因となった。
2. 長男のみがすべてを継ぐことで、一族の領地と勢力が維持された。
3. 幕府が領地を一度回収し、功績のある別の武士へ再分配した。
4. 領地が細分化されることで、農業の生産効率が劇的に向上した。

問6 『平家物語』の冒頭には「娑羅双樹（さらそうじゆ）の花の色、盛者必衰（じょうしゃひつすい）の理（ことわり）をあらわす」という言葉があります。この物語の全体を貫いている、万物は常に変化し同じ状態にとどまることはないという仏教的な考え方を何といいますか。（2020年 千葉県公立入試 類似）

1. 諸行無常
2. 極楽浄土
3. 質実剛健
4. 神仏習合

問7 鎌倉時代の1232年、執権の北条泰時が制定した、武士の慣習に基づき裁判を公平に行うための基準を定めた法典はどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 御成敗式目
2. 武家諸法度
3. 公事方御定書
4. 十七条の憲法

問8 鎌倉時代に全国に配置された「守護」と「地頭」の役割や設置場所の違いについて、正しい説明はどれですか。（2017年 愛媛公立入試 類似）

1. 守護は国ごとに置かれて主に軍事や警察の任務を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収や土地の管理を担った。
2. 守護は荘園領主として現地の経済を支配し、地頭は国司の下で地方行政の実務や朝廷への報告を担当した。
3. 守護は幕府の最高職として政治全般を補佐し、地頭は幕府が直轄する都市の治安維持とキリスト教の取り締まりを行った。
4. 守護は東日本の警備のために臨時に任命され、地頭は西日本の有力武士を監視するために京都の六波羅に常駐した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 源頼朝以来の先例や、武士社会の慣習をもとにして作られた。	御成敗式目は、それまでの公家が用いていた「律令」ではなく、武士の間で重んじられてきた「道理（武士社会の慣習）」を基準にしているのが大きな特徴です。これにより、武士にとって納得感のある公平な裁判が行えるようになりました。なお、「建武式目」は室町時代、「武家諸法度」は江戸時代の法律です。
問2	答え 1 天皇が中心となって公家を重用する政治を行ったが、恩賞の不公平さなどから武士の不満が高まり、わずか数年で崩壊した。	後醍醐天皇が目指した政治は、それまでの武家政治を否定し、天皇が直接統治を行う古い理想の復活でした。しかし、土地の所有権をめぐる裁判の混乱や、倒幕に功績のあった武士への恩賞が不十分であったこと、さらに急進的な改革や重税が人々の不満を招きました。その結果、有力な武士であった足利尊氏の離反を招き、南北朝時代へと移行するきっかけとなりました。
問3	答え 1 国分寺建立の詔（奈良時代）→ 最澄による天台宗の開教（平安時代初期）→ 中尊寺金色堂の建立（平安時代末期）→ 運慶らの金剛力士像制作（鎌倉時代）	聖武天皇が社会の安定を願って国分寺建立の詔を出したのは平城京に都があった8世紀の奈良時代です。その後、9世紀の平安時代初期に最澄が比叡山で天台宗を広めました。12世紀の平安時代末期には、東北地方の平泉を拠点とした奥州藤原氏が中尊寺金色堂を建立し、浄土教文化の黄金期を築きました。そして13世紀の鎌倉時代に入ると、運慶や快慶らによって力強く写実的な東大寺南大門金剛力士像が作られました。室町幕府を開いた足利尊氏や江戸幕府を開いた徳川家康の時代は、これらよりもさらに後の時代となります。
問4	答え 1 琵琶を弾きながら語り歩く琵琶法師によって、各地で語り伝えられたため	鎌倉時代に成立した『平家物語』は、平氏の繁栄と没落をえがいた軍記物語です。この作品は、琵琶を弾きながら物語を語る「琵琶法師（びわほうし）」によって各地へ広められました。音声によるパフォーマンスとして親しまれたことで、当時の識字率に関わらず、多くの民衆がその内容を知ることができました。
問5	答え 1 個々の領地が縮小し、御家人が経済的に困窮する原因となった。	鎌倉時代初期の武士社会では、子に領地を分けて相続させる「分割相続」が一般的でした。しかし、この方法では世代が交代するたびに1人あたりの領地が小さくなり、武士の経済基盤を弱める結果となりました。元寇の際に恩賞としての新しい領地が得られなかったことや、貨幣経済の浸透による出費の増大も重なり、多くの御家人が生活に困り、借金を抱えるなどの事態を招きました。これが幕府に対する不満へとつながり、鎌倉幕府が衰退する一因となりました。
問6	答え 1 諸行無常	鎌倉時代は戦乱や社会の変動が激しかった時期であり、仏教の「諸行無常（しよぎょうむじょう）」という考え方が人々の間に浸透しました。これは「この世のすべての現象は絶えず変化し、永遠に続くものはない」という思想です。『平家物語』は、一時は絶大な権力を誇った平氏が滅び去る姿を描くことで、この無常観を表現しています。
問7	答え 1 御成敗式目	北条泰時は、源頼朝以来の武家社会の慣習や道徳を整理し、土地の争いなどを公平に裁くための基準を「御成敗式目（貞永式目）」としてまとめました。これは武士のために作られた最初の法典であり、後の武家政治の規範となりました。
問8	答え 1 守護は国ごとに置かれて主に軍事や警察の任務を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収や土地の管理を担った。	守護と地頭は、それぞれ設置された単位と役割が異なります。守護は行政単位である「国」ごとに原則1名ずつ置かれ、国内の武士（御家人）を統率して、謀反人の逮捕や大番役の催促といった軍事・警察的な仕事を行いました。一方、地頭はより細かな単位である「荘園」や「公領（国衙領）」ごとに置かれ、年貢の取り立てや土地の管理という実務的な権利（地頭職）を行使しました。この重層的な支配構造を理解することが、鎌倉時代の制度を把握する上で重要です。